

共卅本

成形圖說

農事部

五



特別
= 1
144
5



加 / 門
號 / 44
卷 5

成形圖說卷之五

目錄

稼穡

登塲

穀禾

米粒

糧糈

糙稗

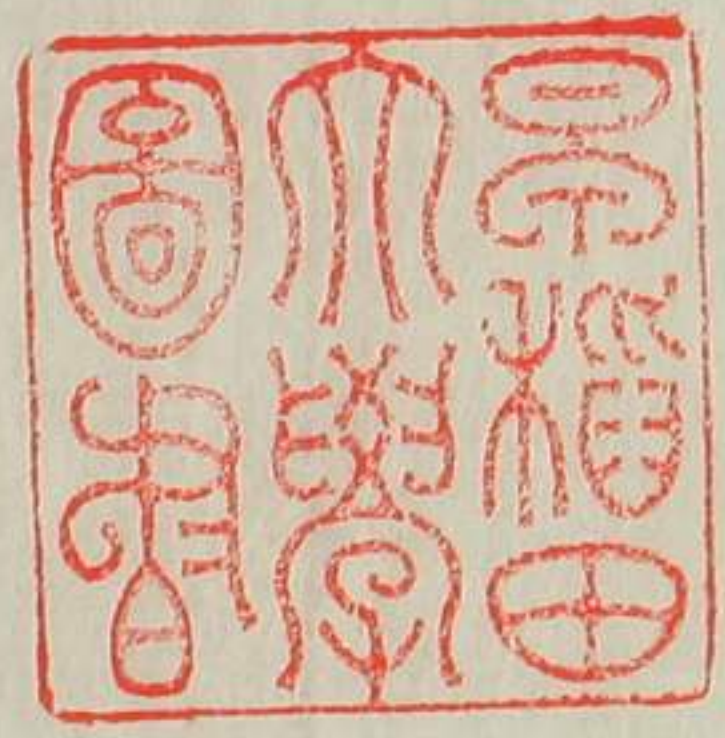
粃糠

附 麥 兪

附 糯 稌

附 糈 稗

附 老 米



成形圖說卷之五

成形圖說卷之五

農事部 稼穡

川

取續紀○倭姬世紀先穗拔穗令拔半分大稅令川云々拔

加

留と細稅又竹ふぐ伐かきとあ事記子ハ鎌の字と

と

教て身子刈歩万刈とけいハ某把種某升蔣と回し田産

川

田建武式目約田狼藉事為檢断方沙汰可有糺明之所

し

べ川上取上凡俗物と納めいろ

稼

穡書土爰稼穡○文選藉田賦躬稼以供染盛所以致孝

莖

節為禾詩十月納禾稼又曰稼家事也按文禾之秀實為稼

含

つり正韻種之曰稼斂之曰穡川上の事のよは稼と訓よ

斂

獲注家語收獲書農獲川論講德收川織圖

蕃

名コールニインヲーステン收コールニインデシ

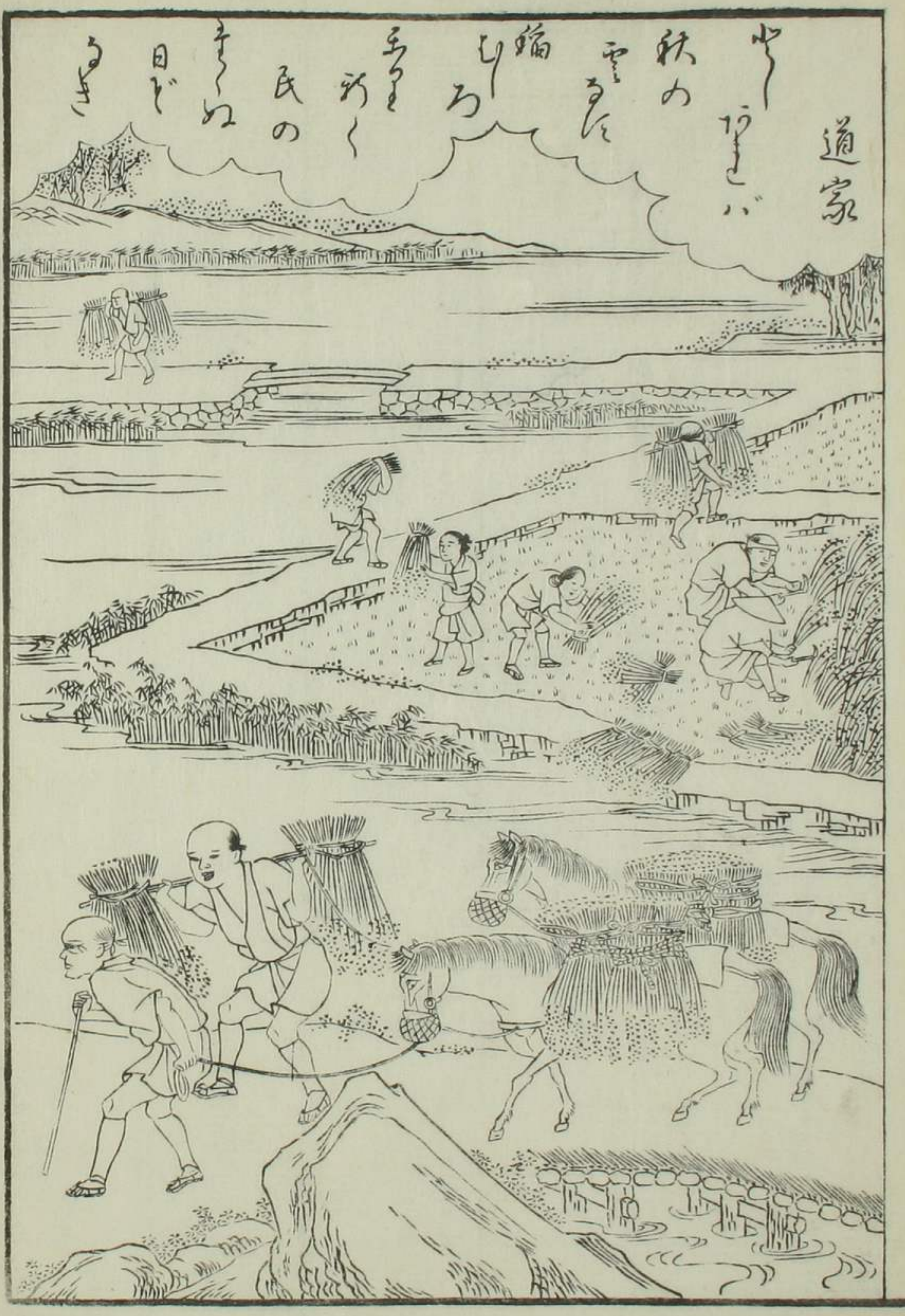
成形圖說卷之五

二

キエールハブレシ 穫

稼ハ此ハ志通計と云農事と作を一切の他法より俗も志
のけ州取あど留へり今幼子僮僕も教育をふし又禮制と
習志しむるをせよ志のけさといふとおれし禮制ハ儀式依
法のゆや因禮儀も失はね作法とつり稼は農耕の他はゆ
ふ論語もも學稼もとけ法志しげ老農も志かどとん
えり俗も生理をかせぎと稱て稼字を用うかせぎとふ
言撰集抄もあさればふさき法もつしお語拾遺に持
の字をかせぎと訓り是も是と動かして事と習いよ
里義訓やるとも職人歌合にかせぎが過といつる取の名

も此義もやとあり 鹿柵と訓ハされバ稼穡ハ農功の終
始と出せるよりその物あるハ終あ〜んとして〜かせ
ぐられ俗も荷する種ハあつるといふがぶと耕して
穡も申すとして農の稼とやじぶきわざあ〜めやは夫
米穀と作るの次第ハ許多の艱難工夫と取ら〜たりま
け取あずの時節ハ七八月あ〜志げ〜とて〜日中も立
や〜ら〜は炎熱の氣丞グ〜〜ス堪〜〜スに農まハ是
と悉じて早稲と刈り引漬て申すものを刈干おとな
里福ハ熟め〜時己も各と放〜ホお〜オの申す刈は陸いつ
田つ〜に攤ほ〜ヒ〜ヒ又深沼田ま〜は畦畝或ハ木と樹タ



竹と挿て其上より芽むすの稲と熟るをあり又奥のなま
ば一霜二霜ほど降るを青稲まがななく実つり望
く熟るをいふ候て刈りたるを枕巾着は八月つ
ぶかりぐつに秦隆子詣げとて見違は穂も出は田は
人多くては多く稲刈るなりちりともこのかゝるにい
と赤き稲のこぎは赤き稲かり持て刀り何より何ん
きととまはは海のやまあに焚てく事ふいととまを
くくはゆりや穂をよとて並居るいとおりふはゆま
八月は稲葉色づく候て月の名も葉月といはゆづる
稲の刈上田の實ある乃実時より續貫行は稲の色づく

よりハ穂より赤くみ葉黄むと葉梅色とある秋八月より
九月より陰氣上より月澄々風身は深きは地
下ハ十一月中より一陽起るより九月ハ地中暖ふ
る氣を償ふ也此十月草も梅苔の木の葉謝る下より
陽氣上るよりつろくぐくく稲も亦地下の陽氣は陰
根心は暖むるより刈りた後は穂は生きてり然ども
地上の陰氣強く露結でハ霜とありより冷さるより
きて穂より赤く葉は色黄む存わらばまがなと赤きう
ちを刈取事稲の刈節あり万葉は秋の田乃穂田は刈む
うかふいあは波とく人の吾とふとふ人稲田の穂

よあると穂田とく刈ざらハ刈き厚よりうらと云
又飛舟井雅章寄田家百姓田歌と刈ま何つうと
きうと何つうにうら穂ハ多ある稲と云河あり
○或日低田ハ稲株と高く刈きハ土沙よりきりて各垢
多まり株と亦土とよりて高く刈あり又或この代ノ事
心通うらが試る早刈稲ハ九月十四日刈き此歌
一升三百目摺て五合七夕あり同一田と廿日遅く十月
十三日刈らハ一升二百九拾目摺て米五合二夕あり
是一升の中よ廿日よく刈らハ量目拾目摺て五夕
多きよ米の吐よく碎ざらがぬ也とつり且又素田ハ

特よ早く刈反一稲根と于し地と乾きて麦を蒔入る
時ハ畑妻よ劣らざば成実地はよ一ハ里西南の地ハ
刈時を微多ると其田のよハ常遅く延びるよと云ふ
るためあれハ少ハ時節よりよよおくれどや
秋のせむをきき業まり徹書記新又暇まに秋田刈き
ハ村雲のゆは時よや月減るよ此新よ田家の
刈き後いハ叶へてあれあるよ九月中旬ハ
ら稲の刈時よ父母妻子田場よ下起り月の阿ら
よこのよ夜田と刈なれば月と見はよ
と雲のゆは暗くありよ春の見えずはかどよ仰で

月とくもるまるとハ言ふ民の勤勞^{シヤク}と就^{シヤク}の體字^{シヤク}一^{シヤク}は
 世の憂^{シヤク}とぬが^{シヤク}おきて^{シヤク}後の秋の月と眼^{シヤク}い^{シヤク}じ^{シヤク}まで
 月と仰^{シヤク}き^{シヤク}んて^{シヤク}からのやまの歌^{シヤク}るん^{シヤク}ど^{シヤク}お^{シヤク}ん^{シヤク}一^{シヤク}ある
 ハ酒^{シヤク}者^{シヤク}飽^{シヤク}まで^{シヤク}飲^{シヤク}ま^{シヤク}ん^{シヤク}と^{シヤク}又^{シヤク}雅^{シヤク}風^{シヤク}流^{シヤク}と^{シヤク}ま^{シヤク}ん^{シヤク}一^{シヤク}は
 ゆ^{シヤク}る^{シヤク}じ^{シヤク}て^{シヤク}い^{シヤク}ハ^{シヤク}好^{シヤク}む^{シヤク}あ^{シヤク}る^{シヤク}お^{シヤク}と^{シヤク}祈^{シヤク}ま^{シヤク}は^{シヤク}や^{シヤク}り^{シヤク}ん^{シヤク}い^{シヤク}ハ
 一^{シヤク}農^{シヤク}隙^{シヤク}ハ^{シヤク}武^{シヤク}事^{シヤク}と^{シヤク}謀^{シヤク}一^{シヤク}ハ^{シヤク}あ^{シヤク}る^{シヤク}者^{シヤク}と^{シヤク}せ^{シヤク}る^{シヤク}は^{シヤク}べ^{シヤク}し

稲積^{イナヅミ} 出雲風土記 神門郡 稲積山 大神之稲積也 ○書紀人名
 義^{イナヅミ} 稲積あり 今正月朔は寝といふ つむと云は稲積の
 穂積^{ホヅミ} 古事記人名 穂積あり 東鑿穂積莊預
 古頭美 新撰
 字鏡

○蓋米積 稲聚^{イナヅミ} 夫本集厚吟てうち積^{イナヅミ}と云ふ
 ちの秋ハ種^{イナヅミ}と云ふまくらめ

登場^{トウジョウ} 詩幽風 九月築場清耕織圖譜 收禾圃曰場物生之時
 則耕治以為圃而種菜茄物成之際則築堅之以為場
 而納^ナ 度^タ 毛詩註露積曰度積粟 露積^{ロヅミ} 同上註積露積也
 或作穢^セ 穢^セ 也又露積之木曰度 積^{ツミ} 同註積積禾也
 並積禾也 積^{ツミ} 三才圖會○農桑直說云作苦用穀草黃
 也積苦ハ稻 積^{ツミ} 野草皆可凡露積須苦繳蓋不為兩所敗
 積^{ツミ} の草あり

蕃名スコーヘンラップスターペレン

稻ハ刈上て^{スリカテ} 磨搗^{モミ} ハ穀^{モミ} 碎折^{クサレ} 之のありぬ一
 且曬^{ヒキ} て^{ヒキ} 後^{ヒキ} 東^{ヒキ} 稻^{ヒキ} の穂^{ヒキ} 穎^{ヒキ} と^{ヒキ} 裏^{ヒキ} ぬ^{ヒキ} 一^{ヒキ} 圓^{ヒキ} 積^{ヒキ} 累^{ヒキ} 立^{ヒキ} て^{ヒキ} 穀^{ヒキ} 稈^{ヒキ} 也^{ヒキ}
 よく熟^{シレ} くら^{シレ} 子^{シレ} 摺^{シレ} 落^{シレ} ぬ^{シレ} なる^{シレ} 古事記傳^{シレ} 伯耆^{シレ} 國^{シレ} 東^{シレ}
 稻^{シレ} と^{シレ} 積^{シレ} 累^{シレ} ぬ^{シレ} なる^{シレ} 積^{シレ} 村^{シレ} あり^{シレ} 東^{シレ} 積^{シレ} と^{シレ} ハ^{シレ} 東^{シレ}
 事^{シレ} くら^{シレ} え^{シレ} たり^{シレ} され^{シレ} ぐ^{シレ} 久^{シレ} く^{シレ} 田^{シレ} 間^{シレ} 在^{シレ} る^{シレ} ハ^{シレ} 雀^{シレ} 鴨^{シレ} 子^{シレ} 鳴^{シレ}

またハ俄のあふぐあきば遺穂ホとなく漂流トラヒナガさるる或野火
子罹カて消亡し希カントキ又震史の災ヤ遇ユとあり穀ハ火カ子焼ト
予りて食ふるをくは 淡海志云西辺江ツタギに鑿田とす
あり湖の水溢る時刈穂の稲と流石とと鑿ツタギく故とりや
稲機イナ 三代類聚格云夫本集經信の哥よりりいろ門
稲木イナ 和訓栞稲と然るはもののな
麥イナ 三才圖會筩架也若麥若稻等稜
穫イナ 而束之悉倒其穗控於其上
喬干イナ 同上挂
禾具也

三代類聚格曰承和八年閏九月二日敕大和國宇陀郡人
田中攝縣曝種穀之燥似當火災俗謂之稻機今諸國往々

蕃名

所有在焉宜仰諸國廣此器專利之不得踈畧今按子稻機
ハ今の稲木とは別一又出雲風土記神門郡杵山ハ大神
御稲杵イナ也と有り土佐の春水が歌と掛てち以門田の稲
木末たまた年有民の秋イナを貯イナる○じり○刈稲イナの穂と
おそのは稟イナ實並刈者なりと云るなり
みまらちたりと云るなり或田志イナ
き又竿イナみくけたりと云るなり毛詩朱註凡禾
者穀連稟結之總名也此云刈穂イナなりと云即禾イナの
あり又穢乃字和名鈔引四聲字苑穢イナ刈把イナ數也廣韻刈禾
又曰田野人所謂棟イナ稲イナ奥イナの磐井郡東稲山あり西行みち
一イナは顔會棟イナと束同縛也又曰稲手イナ波イナ淡海志玉島イナ也近江
の漢乃イナいと云るなり

成形圖說卷之五

ゆるきの杜乃切けまゝに詩小雅此有不斂穡と云
えし穡字は舊讀ていふたゞ孫とらゝ棟字と云ふれ
此等上世ハ租税皆ハ徳のまゝみく上り納貢せしむど
小稱某東某把との見えゝり續紀天平十七年制曰諸
國公廩大國四十万束上國三十万束中國二十万束就中
大隅薩摩兩國各四万束云々風土記殘編且公穀某九假
粟某九等と云ふと何れ九等ハ俵にて束稈の溜あるに
加茂御田植の狂言と今年種まきして秋の稲ハ何束と
をぬむるゝとらゝ古言あり當今ハ我南島の民皆刈
穂あり租倉に納め定なり其數量ハ大稱と云々輕重は
度里多少は知るなり又按三代實錄曰出羽國元慶二年

夷虜所燒盜穀類三十二萬五百一束六把八分六毫精七
百五十斛と云ふり其束把は計る分毫まゝの數と
るふと今の糙米の抄撮と相同之は拾芥鈔と考ふる
十釐為毫十毫為分十分為把十把為束又曰六銖為一分
四分為一兩十二兩為一屯十六兩為一斤小一斤也三斤
為大一斤四十八兩也大十斤為稻一束一束一斗米春五
升是是升耗是あり是あり中古以來の稻乃束把の斤目の量は
知るがし古來よりけ搦の秤の石の重くと云ふとしハ
氏のうれへり今西清乃租稻と云々稻ありと云ふ
是と云々穀あり秤ありて竹目は度り九等と云ふ

その米斤量と用て直とあるは凡百斤此方の四斗と
あり一斛ハ即二石五十斤とありといふ

毛美 古事記○即穀子也俗粒の字と用う元正紀も粒四字
あり又諸國風土記の殘編もよるゝり蓋和字

米乃衣 新撰
字鏡

穀禾 字典凡穀皆曰禾說文穀百穀之總名毛詩朱註
凡禾者穀連稟結之總名稻秫故梁之屬皆禾也

子 舞水 穀子 舍利 慈恩經疏舍利者稻穀也佛體
大小如稻穀量故以為名矣

著名ハアコイ

毛美トは田茂物實トコト者もりあり一穀もハ萌實

也其實の萌實をまといつり又毛美トは眞實也を衆實
小粒との英名ありありといふも應神紀も芳野
の國榎蝦蟆と上味と名て毛彌といふ毛美ハ旨と通
一ハ物海の方言と味ふまは毛美奈比と云ふ大同
類聚方ふも天地間之衆味米第一云々○續紀養老三年
制曰穀之為物經年不腐自今以後稅及雜稻為穀收之夫
皇國より毛美といふハ香稻子といふて祝詞ハ荒稻と
いへり蓋五穀の屬唯稻と最上といへて他穀ハ俗子之
と雜穀と稱ふは五穀の外先此とのと表出也○天智
紀元年春正月稻種三千斛賜百濟八年三月賜耽羅國王

五穀種子ハと見えたり夫吾邦の稲穀ハ五方の種ニ
 獲カ多クとてむりハ異國ヨリ買カ米ヲと求め例多シ
 因鎮西の稻穀と宋へ渡ルとて禁ラれハとあり當
 時顯朝卿乃稻穀と粟實と書キとて定副卿の何はの
 ことは何ごとクと鳴クとて顯朝卿とがめて禱ス
 なりハとあり是をろクのいふハは粟といひ
 ハ考衆穀の大名ニ後ハ粟のノとて紛ハりル
 伊豆なり本草時珍云古者以粟為黍稷梁秫之總稱而今
 之粟在古但稱梁ハ粟部ニ古事記傳曰ク皇御
 國の萬の物と事と異ニ國ニに優ス中みと稲ハ珠ニ

今ハ玉ノが美の國ニと見えたりハ神代より傳レ所
 由ニ於テ諸人ノかクは免レてハ御國ニ生レかクは
 免レてハ稲植と稻葉ハ稲葉ハ皇神の恩頼ト思ヒ
 昔ハでハなリ洋國ノのハとハおハいハ何ノあハい
 りみト○ろク稲とかりテ田ニ米トあり場ニ
 なリ何ノむリけハ竹管ニてテ挿キ持テりハ中ニ右ニ稲持テ
 てハその作リてハ引キてハ穂トと落シおハり
 今ハ穂と薦ハいハろク新ニ種ト終ニ日ニおハりハてハ上ニ
 竹ノ挿キてハおハくハ穎毛トと挿キてハ突キてハ是トとハ搗キ
 らハつハ次ニ小ニ芒毛トとハ粗ニ麗ニみハゆ

里透^{トホ}穀^{モミ}の塵芥^{チリアケ}とあり除く又再び延^{ヒロ}攤^{ハシ}を曬^{ホシ}て熟^{ウツク}お
 て穀^{モミ}殻^{カラ}と磨^トり破^ヤりつゝ或^モ箕^シ或^モ米^{コメ}籠^{カゴ}あてゆりきつゝさだ
 秤^{モリ}ハ上^ウに浮^ウき米^{コメ}ハ底^{ソコ}に落ちる其中^{ナカ}未^イ磨^{ダシ}ぶらるゝものハ幾^イ斗^ト
 びと磨^トく引^ヒ破^ヤるあり今^{イマ}ハ千^チ斛^{コク}透^{トホ}ておそのまて荒^{アラ}秤^シ粗^コ
 本^{モト}米^{コメ}と二段^ニ段^{ダン}に籠^{カゴ}へ分^ワるゆゑ甚^シ工夫^{クワフ}と省^セくありきて残^{コノ}
 志^シ收^ウなく磨^トり破^ヤりつゝ耐^タ通^{トウ}箕^シへ入^イる其^{ソノ}羽^ハ木^キと特^{トク}やば
 米^{コメ}ハおろし落^オちて秤^{モリ}ハさだ横^{ヨコ}に扇^アぎ籠^{カゴ}に米^{コメ}と秤^{モリ}二段^ニ
 五分^{五分}分^分たり是^{コノ}をむて刈^カわがらふ福^{フク}穂^ホ始^ハて米^{コメ}とあその
 おハ浅^{アサ}も深^{フカ}もあり其^{ソノ}一^一はくは米^{コメ}と浅^{アサ}までと刈^カわがら
 ぶ搗^カあげ磨^トり破^ヤりつゝ其^{ソノ}工夫^{クワフ}次第^シ始^ハてと

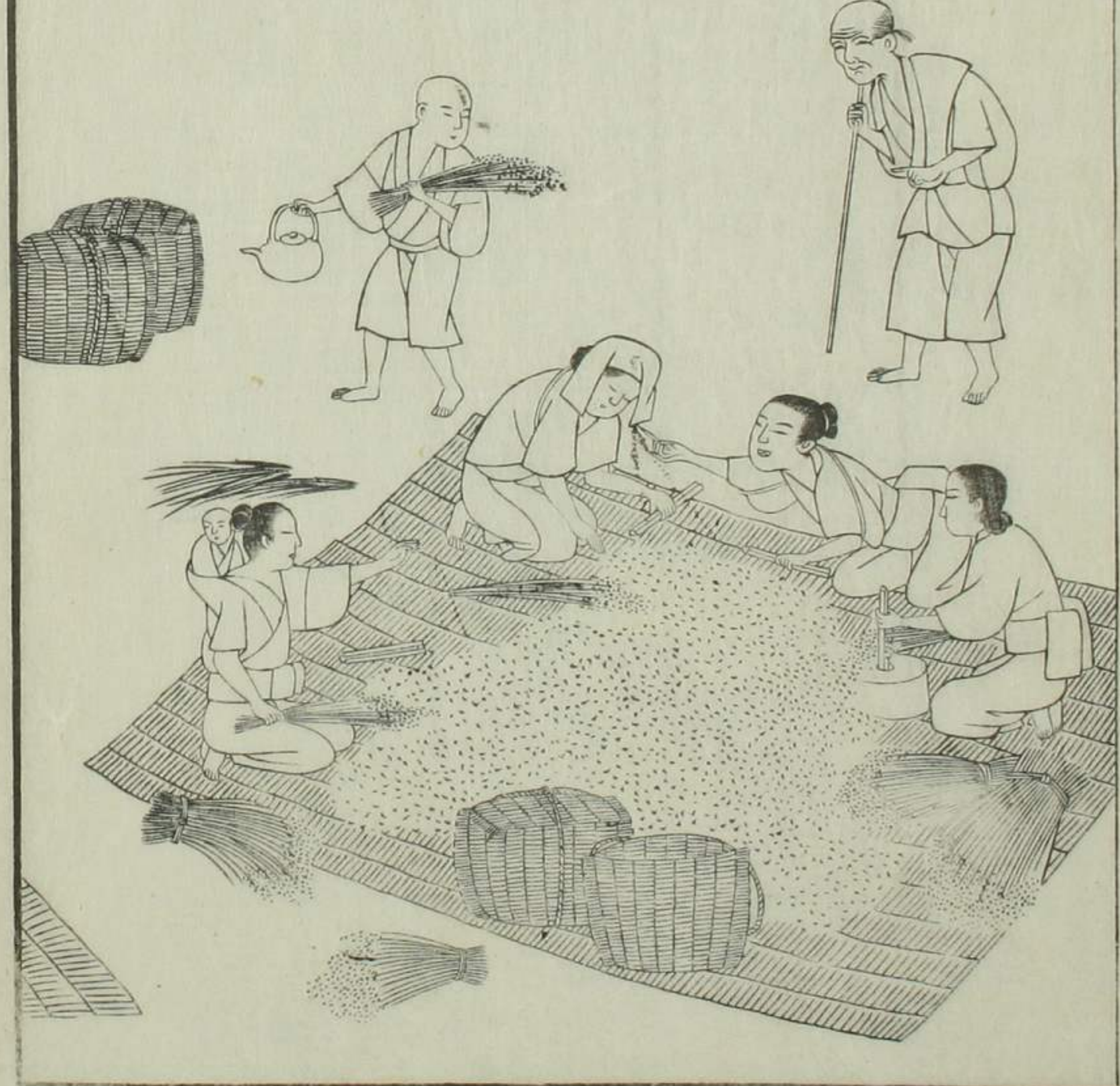
措^{オキ}ぐゝく時^{トキ}に及びく風^{フウ}雨^{アメ}の損^イ壊^ク獲^ウ收^{シュ}の耗^{ソウ}失^シな記^キやう
 に備^{ソナ}へ艱^{ケン}難^{ナン}と成^ナりて百^{ヒャク}折^{セツ}千^{セン}磨^バの業^ノなまは筆^{フデ}言^{コト}おは
 弾^{ヒキ}く述^ツぐゝ〇あるがいとく農^{ノウ}の力^{チカラ}おとせよあわれ
 あるハ何^{ナニ}と云^イはるま侍^{サマ}よりまづ〇の息^イをつきあ
 へど潜^{カサ}むる蟄^{カサ}のうき沈^シむ業^ノまづべ視^ミるは陸^{リク}の芽^メハ
 命^イと白^シ波^ハをかけ失^シふおどのかきき暮^ク月^{ツキ}ハよと何^{ナニ}
 ト唯^タだるぞん堪^タぐゝ蟄^{カサ}のやまゝと露^ツよとむあ
 ひくおそろしけまいつまゝ夜^ヨ深^{フカ}る道^{ミチ}のやまゝと
 ハあるとかくもあき業^ノにおもいかへて大^{オホ}本^{モト}とて
 限^{リミ}りの一^一とせよ二度^ニ乃^ナ仕^シ付^ツ取^リ上^ウとんよかけて働^ハ

くべーはくバ赤くは急イサしき中も我おもひ人乃来
 月せよ登月つめバ迫くさえよしで立志くまへは風
 懐しく頼て福こぐ手付あどしてさりあふく書きつは
 此不どのいとまなまきたうとまーかろー恨あどふの免
 かー人志まぬむ川ぶとの曾よいおもひ州をゆれあ
 ろハ我あぐろ其といまぬぞ丹づーの危も出まあり
 今多りのわりやうあろがスルス磴乃猪持あぐろ縁ありあふ
 色白の書もいりー軒イヒキまかちりてゆゆれどおもひど
 ちの月ハお月さまなりて秋と秋とも志くで方のつ
 くれあく思ふい色とおひがあぞかー末の松山海川

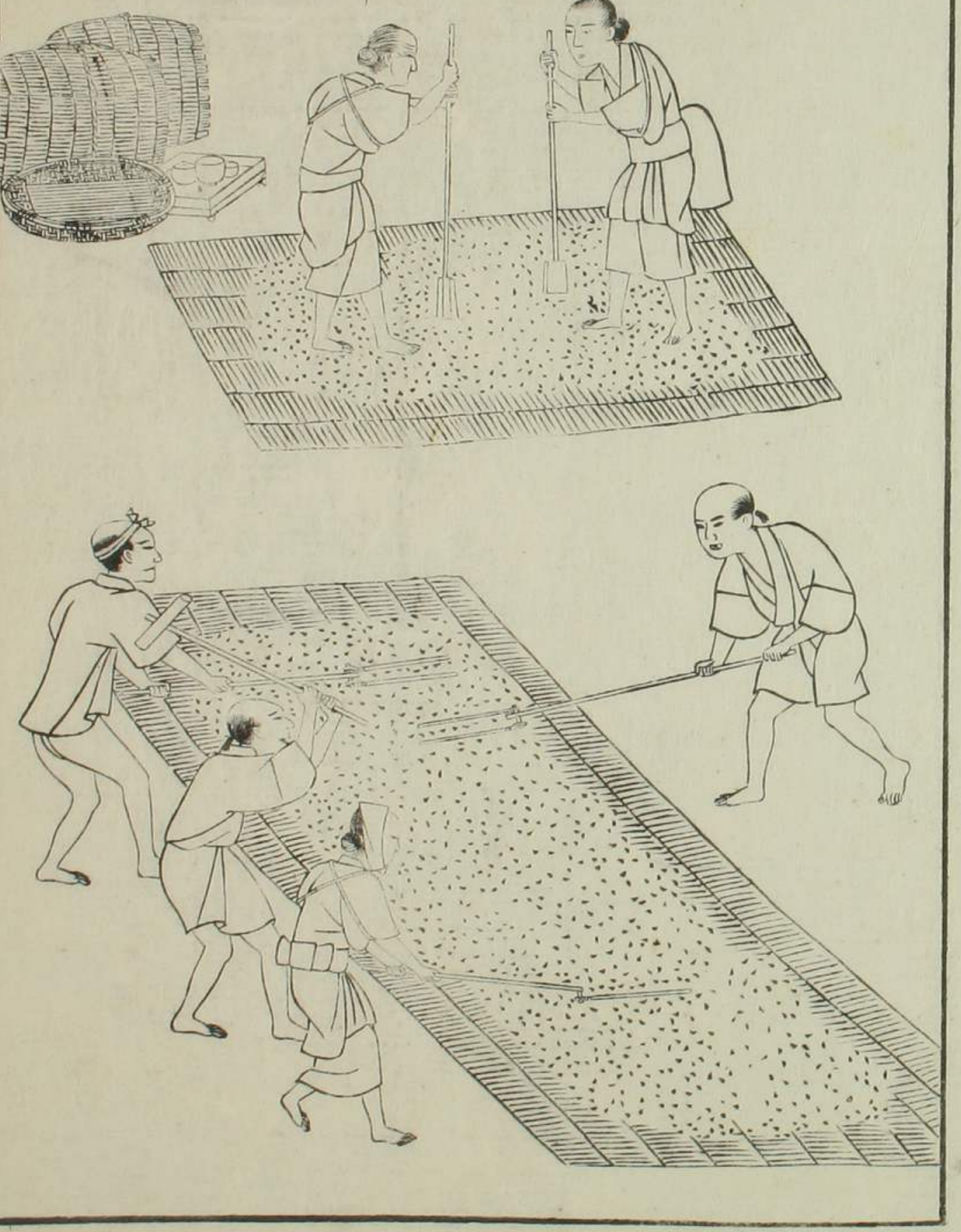


或人稲持コキち
 うとろく稲
 の夏つらや
 と同るまば
 大の稲け
 島あさ
 沖の
 うりあふ
 かきこと
 ちりて
 ぶくぞ
 か那しき

枕葉残清少納言
 五月十日
 人として加茂のお
 くみゆしよのおほ
 とつふやのおほ
 くどおのまきさ
 女どやのまきさ
 なまのまきさ
 家のひらけとん
 ろものひらけとん
 六くしておまて
 わしうぬくろを
 わのふいりて
 うせてまうとめ
 ちどまうとめ
 しとてわとめ
 えりしとめ
 月とわれが末
 回穀とこぎか
 りし



清耕織
 圖
 南畝秋
 來慶阜
 成瞿
 瞿未
 釋老
 農情
 霜天曉
 起呼鄰
 里遍聽
 村々打
 稻聲



成形圖說卷之五

田家行

王建



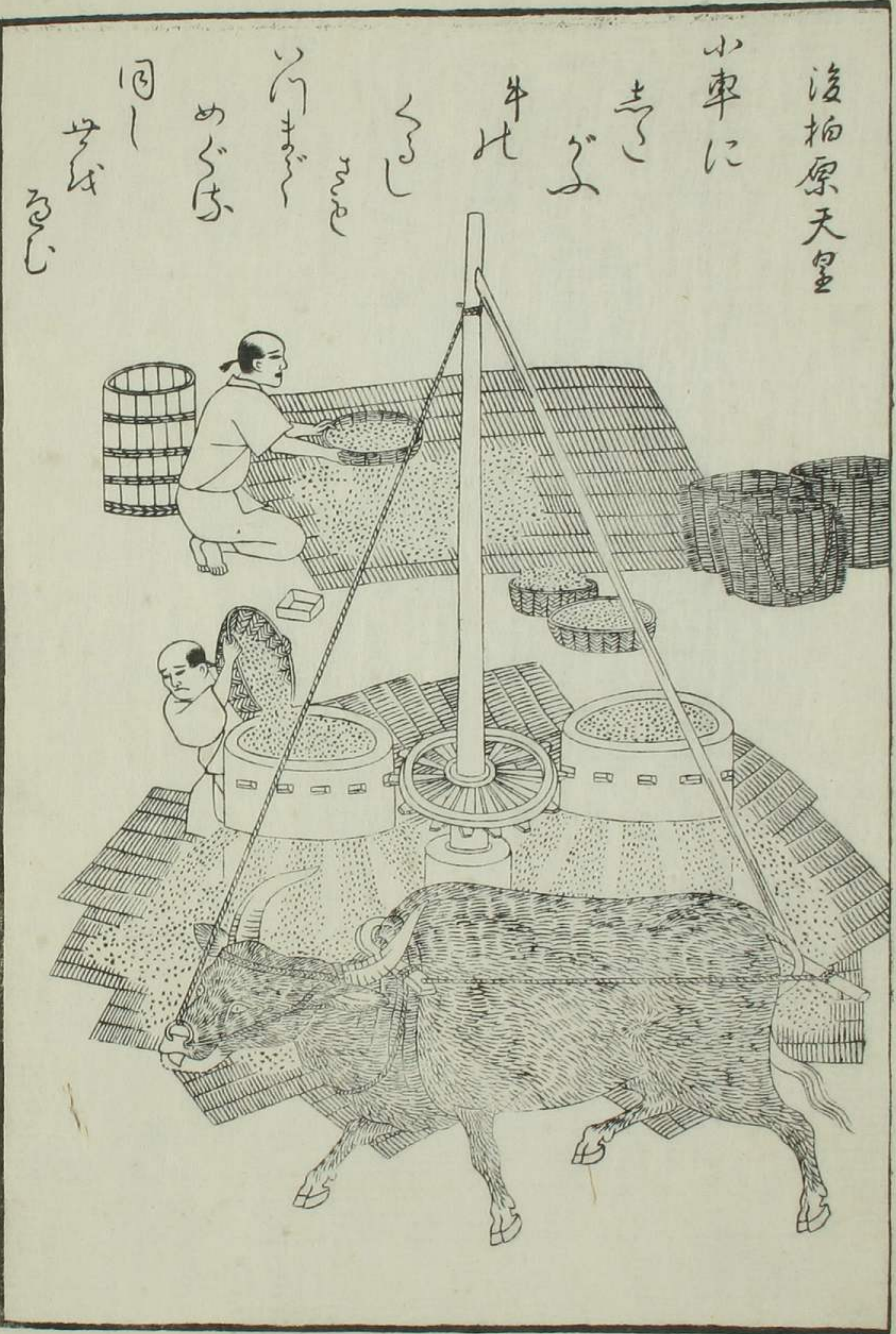
男聲欣欣
女顏悅人
家不怨言
語別五月
雖熱麥風
清簷頭索
索驟車鳴

野蠶作繭人
不取葉間撲
撲秋蛾生麥
收上場緝在
軸的是輸得
官家足不望
入口復上身
且免向城賣
黃犢田家衣
食無厚薄不
見縣門身即
樂



後柏原天皇

小車に



夫とあつて人よふゆりさしてこそんはいこき業と
もつゆとど世の中つまりつていふらくのうりよて世帯
のりたれど辛苦つなまじ媒まなより嫁入して澄ひ織と勤め
管イナ之キト農カトたづも乃はなびひしと法さをきりぞかすづて
女の男おとこ擗おきむよふんとの歌よ人もみそめと男おとこさ
めんハ父母のばうらひは送あて我とちくくい合は
る中ハいりみもくや一きりきりあんと十割抄
み志こころ深ふかし深ふかつりひるハ亦農家壯者のうにの海うみありされど
鳥とりげ人の情なさけなれハ如歌うたも鳥とり部ぶとて四季に次づ
ハ有天地然後有男女のちハ我吾 邦天の浮橋のむり諾

丹唱和の詞を起りて造端於夫婦の愛と没あり此意の
 情と失ふも忠孝を存く而も礼義を湛ふは後
 つゝやんば人ハさうろもなりうまし物此あをれハ是
 よりぞしふる葉葉ハ意此意を相聞と裁て妹肯此
 つゝい乃こもるべ足弟朋友のみやびとかりとまでと
 入られれば五倫をわたりてこころはづきことよや
 志りぬども男女此皆深風を奔り猥褻を流して帰る
 道さうさうハ大に戒むべし万葉集のいとはすも
 少はづき丈夫もさうてつよの後は悔あり此一首
 よてよくはむいづもいづり

與禰古事記○土佐日記ふと與禰とをかり
 古免上同和稻稲喜祝詞式受荒多太與禰和名
 八木東鑑又俗ハ十八の壽と賢て聚て此の折字ハ八
 十八ハの教ハ音人殊ハ貴ぶ不ふて且米の折字ハ八
 米和名抄引切韻米穀實也說文米象禾實之形註顆粒也
 十其稈稈開而米見也ハ八米之形とあり今米ハ八
 日本風土記ハ倭國十二支之已曰米又白粲前漢書註
 白粲受白米の名なり玉粒杜詩玉粒足成紅鮮見
 雲子匙又飯と云雲子新炊滑溜薊珠名物方言
 蕃名レイスト

凡五穀の宜ハ皆米なりといふハ一ニ稲米也與禱と云ふ
 舊説ニ與ハよしく云ふ詞なり禱ハ種タネの畧ニてテモ加糖
 なぶやといふ一云ハ或謂米也與禱と云ふは稲と云ふの
 轉訛マダマシなり根と補と云ふ苗ヒコと奈返クハタと云ふはおれ一古免
 とは蓋奇實クニミなるふ一久と古ハいふ一通一り後ノチは俗
 通一て古免と禱ヨチふの皆稻米に係まる稲米イネを粒大
 く煮て碎クサカ缺クサカを糖ニクて白くニク煮ユて飲ノミて味旨く殖ウヰ倍ニよと
 第一と云ふ東鑑トクサニの麝香米ハ光粳米也といつ凡上田の
 米ハ小く圓く色蒼黒く見えく着糠ツグカふ一下田の米ハ粒
 大よして糯モチコのぶとく白く煮て耗ヒツあり又上田の米一文

月の重と云ふ一テ粒百八十顆ツブハ微多少ヒツあり下田の米
 ハ一文月ハ二百粒の多少あり

飯イハ穗ホ古事記○書紀人
の名ハ飯粒あり

米粒コメ是生穀の飯粒イハ是熟飯の粘ネ和字通例米と云ふ
のなり

粒リ音立古文作殮字字典米粒也說文糞也書烝民乃粒傳米
食曰粒既今人謂飯為米糞遺餘之飯謂之一粒兩粒是
米食曰粒用米
為食之名也

蕃名コルシイスト

凡豆マメトト突ツブ也ふまの音マなる俗語マハ
マ

凡粒ハ圓く大あつて穴上と云ふウチの粒リ尖扁稜トビの形

一なるべしと蒼白紅殷黄淡黒等の種一なるべし
 粟物諸は正月十四日松尾の神今日乃宣ひし
 よまうで神祇仰よものしてれさればわりの災や月の夢
 の根と根おして手根こせふは粘飯乃申よ入てきそ
 粘飯ハ七種の羹乃淋しに又々自れ清漸と此一す
 まませとえぬ今米行あどの法園の糴と販あつと
 るものハ米粒と通相てつとよ是ハ何國米は何
 取果ぞと賞鑑もよ十よ一と糴をき智の妙よむと
 もふべし又糧運夫ハ懐の短きとさあふと入食と料
 よ合撮と差ざる皆この類あり○和訓栞曰式の志摩國

ふハ田何むど粒河むど記とり本朝世紀正曆五年十
 一月豊前國兩米初如小豆日闌之後頗以減少似破米一
 村下人或以取食所拾採二三合許なるものあり

加天古事記○書紀ノ稟とて訓めり餉代の畧なり仁徳紀
 是今将酒代皆代ふといひ後又代と濁音
 呼ハ轉あり仲繩みてハ食とといつと
 袁志毛乃同上神武紀ニハ袁毛乃とあり古ハ
 糧調禮廩人凡邦有會同師役之事則治其糧
 典食註行道曰糧謂構也止居曰食謂米也
 蕃名ゲコクテレイスト

古事履仲卷以阿知直始任藏官亦給糧地糧地ハ今の役

粮の高地より扶持米ハ兵賦より出たり凡其賦ハ百石七
 人扶持三百石十二人扶持五百石十六人扶持千石廿
 五人扶持二千石三十四人扶持一萬石百五十人扶持五
 萬石七百五十人扶持十萬石千五百人扶持あり

加禮伊比 新撰字鏡○姓氏
録乾飯子仍あり

保志伊比 和名鈔○河内志汲川郡道明尼寺所
製之糗世謂道明寺天下之絶品也

糗 音避字
乾飯也 糗糧 尚書○本州云丞米麥熬
過磨作之粗者為乾糗糧

蕃名ケドロークテレイスト

延喜春宮式糗一斗一升二合五撮ハ一ハの儲蓄ハ

多かりしと云ふは氣色しつり今も東國ハ此貯

あり仙臺糗者ふ名高し作糗法冬月中糯米と一夜水
 子浸翌日蒸て塊と解き席より落く搦布陰乾し亦塊と

碎す魚子納玉土器に入武火より焼く炒バ腰と末とし

砂糖と加一魚に花の用了時湯に和し拌或餅とし食ふ

焼米 和名
鈔 熬米 亦鳥口
とと云 扁米 凡晚夏中
穀のまく春のめり

扁 音邊和名鈔引唐韻燒稻為米也
○切韻新稻燒而春之得米也

蕃名ゲブラアデレイスト

東鑑曰節料燒米可為國司德分今種ハの耐乃燒米也

鳥口と唱ふ八字拾遺の大饗と云々、とりまきと云鳥
 食とおれ、〇和州平羣郡志貴山より米焼石
 とて名石と出や、皇極紀童謡石上に小糶米焼と
 石よて米焼と云古史考云神農時氏食穀奥州二本松
 子長者倉と云ふ所あり土中より焦米と出、按三代
 實録、夷虜出羽国の穀糶と焼、盗一と云えり、
 二本松土中より出、焦米、此等の遺種あり、
 酒陽雜俎、乾陀国昔尸毗王倉庫為火、所燒其中粳米、
 焦者于今尚存、服一粒、永不患瘡、又清の周
 滅齋、因樹屋書影、病心者拾嗽之、即愈、
 六の他陸祚蕃、粵西偶記云、葛仙米、王城秋燈

叢話云、黒米皆此物なり本朝食鑑曰伊勢、野市、上造
 比米或説非米、非粥之義、とハ、恐ハ、贅筆、み云姫飯海人
 糠類篇、糶米、為糠、〇食經、作糠、法取、蒸米、一升、置、沸湯
 海人藻芥、曰公家御膳、飯者強飯也、執柄家等如此、
 姫飯、全分畧儀也、但人々、依好惡、用之、強飯、時飯、湯也、
 而近代、姫飯、時を湯まぬらせ、よと召、不叶理者也、
 この姫飯ハ、今常の飯、おて強飯ハ、
 悉飯の事、万葉集、貧窮問答の歌に、
 下共に、悉飯、を考へ、むし、は、上、
 又、資兼王日記、曰、明應十年、
 正月一日、諸社、遙拜、之後、三献、有之、次、御コハ、次、比目、始、こ
 の比米、始ハ、今の曆に告朔の意と遺、
 食ハ、人命の天

其始と慎は古の禮ふるべし世俗歳且は芋子羹と茹と
 式とすれど資兼王記の格ふる飯と強と夫同く元日
 食初とほわし又枕冊子の衣ひぬの濡と者ふきみ
 わろきと云ははを今南都の俗粥揚茶と煮みは佛
 事よて措の飯は皆粥あふ凡常の飯と煮みは佛
 こを饗養に粥と盛て粥かき○凡常の飯と煮みは佛
 との磁碗に粥と盛て粥かき○凡常の飯と煮みは佛
 熟の時あり竹筒を盛て粥かき○凡常の飯と煮みは佛
 と火の上より旋くゆられ筒の中に飯小えるとのあり
 波是米と波是ハ火とて粗と爆と細末と俗波知也米と云
 亦作飯説文熬稻稬也○急就章云饑之言散也熬
 糲亦作録類篇李婁米花中郎集
 糲ハ糯米の穀と漬て熬ハ爆脹て稗自脱去り色潔白也

又糯の精米と蒸し曬て舂離し細沙を雜へ炒と焦れ
 せ而篩て砂と去也沙糖と和食又粉とて餌餌と潤ふ

穀米

搗稻カキミ以上漢ノロコ黒米貞觀
 糙チ或作穀籾字典粗米春和名鈔引本朝式為糙者
 春稻成穀之名也杜詩秋菰成黒米精糲儲白粲
 蕃名ラングスタムブレレイスト

穀米とは穀殼と脱せし米あると搗稻とは今穀皮
 と糲めて挽割と磨搗の言何り職人魚山蔭や木の下
 屋こらくる米地月いで、其志をあらはれ

平精米 和名鈔○東雅のひつとは平等とつふがとおくよのほろのおとくなくとつふ酒なき糖とは
 白くもろ 粗平 半白 今醋あど醸より少し者 雉目
 糲 音厲史記序糲稻之食註一斛粟春七
 糲 斗米為糲又云五斗粟三斗米為糲
 糲 米謂春一斛之糲成八十之米也
 著名

太平十二策 伊勢大神宮ハ三杵の供御間食とは粗
 平の米 糲事あり韓非子も堯之王天下也糲梁之食と
 も 尺えぬ古語云人王自奉儉薄天下化之上踐節儉則不
 令而行 民俗自歸於淳樸上下分定億兆志定斯治天下之
 要道也 されハ後々の帝皇を倚廬に御在はしてハ女房

去後 とつきて御配膳よししぬ白御飯の上よ黒き御
 飯 とくもへるあり黒色よ深るハ後乃代の何やまり
 ろ るべし黒きハきりぬるるぶさし滋野升公
 藤 の亮恒和鈔よんしり

精米 新撰字鏡

與禰志良具 同 白米 貞觀儀式

糲 音稗或作糲精粗糲の三字并白米也詩大雅註米之率
 漸 細故數益少四種之米皆以三約之
 是 三升さかきと帝皇も志た新なり
 蕃 名ゲスナムブレレイスト
 白米 唐六典

受通例の春米なり駿河國民部省帳に阿兵郡阿兵布無
 公穀假粟市間出一軒五升之精米各月兼充國府之處為別
 厨司之料和泉式部集に阿屋一の志乃乃ぬがよぬとい
 りとのとさるる付りつゝとて踏のあり松原いり
 りはとらん志るるはうとて里とよみあり西土の米
 ハ此間のつとく臼杵をて春ハ多く碎破り申ふる車
 みて搗つゝ其脆弱と見るべし
 真精米和名鈔○鳥逐稲は福の神といえし
 ぬめちるる米よはりふあまふる米 簡米チヨメ
 小供
 供は御膳米と唱ふハ即漢の御ニ尚とす
 太白米 鑑東

繫音作本字繫左傳作繫或作穀粒說文米一斛春為九斗
 韻會小補粟一斛為糲米九斗春糲一斗為稗九升又去
 為繫則ハ升米之
 細者乃窮干御
 蕃名ウイトトエンソイフルレイスト
 米と春は平とつゝハ神代紀に荒暴の世と治安に屬玉
 女成平志むとあまのさき辭あり粗より精に化至
 之おれ一崇神紀に精兵ハ志るるのつばりのとあり又
 之の精とつゝハ色と米と白くはゆるる穀よる
 米となる復春て精白と付ふと切瑳琢磨とつゝがぶ
 と一そり皆取ひりむるをぞや之と朝夕よくい粗ハ
 それと覺えぬみく美の事と精とつゝとハかく持阿里

宋書曰晉平王以短錢一百賦良民登就求白米一斛
 米粒皆令徹白若有破折者悉刑簡不受○仁德紀十三年
 定春米部天武紀云春米連々いふ阿日日本後紀云諸國
 所春年料白米舉百束戶春利十束野府記曰白米千百斛
美濃國言上者數代裁
 免己為流例而主稅察勘癸以租穀混合正稅可春進者頗
 似無其理○事文類聚田樂府序云臘日春米為一歲計多
 聚杵臼臘中畢事歲之土尾○耗又古美米とといふ俗
 倉中經年不壞名冬春米
 言倍利なり凡物の費るべしと云々省入と云々
 省入と云々云々類聚國史云今或所司斛斗之外
 更加耗分糶則一俵二升已上穀亦斛別五升已上とん也
 今何合耗の言何り又欠打口打とハ穀物等の耗分と給

神功后の御子此酒
 と醸するくハハ鼓
 よりていふハハ鼓
 ちて鼓とあて相
 してて鼓とあて相
 大嘗の時貞觀式と
 ありて次春御稻造酒
 童女下手次諸女共春
 と云々酒造の童
 女ハ酒造の童
 ちやし酒造の童
 俗ありと云
 近江國委智那稻常奇
 うやまをちの六
 ちの稻をもちて仲
 と君とにほく初種
 那



入事あり○五代漢隱紀云舊制田稅每斛更輪二升謂之

雀鼠耗王章始令謂之雀鼠耗雀鼠耗の事ハ南史張率傳より云ぬ

白鑿新撰字鏡又式名目類聚鈔曰鑿ハ糯米也熟し僅に蒸て雞卵の楡長如く作る案鐔是に像る

糶音唇亦作糶山海經註祀神之米糶音皇集韻祭米

蕃名ラングアレンテレイスト

登伎ハ磨なり米と精ぐ依の粹なるを一洗ハ齋也

齋といふハ潔斎して神と交るより出る云々といハ

アささば志とよきハ本神より名つらなる後

ミ染の字志登幾と讀出ハ和名鈔引切韻染祭餅也

あるは擲とせりて俗に白米と洗淨て神に奉じ洗

染といふ又粳米ありて染也モト煮ざると志登幾といふ

煮煮まハ即手アラヒヨチ握握子トク洗洗米ハ黒米より用う染ハ必じ白米なれば

志登幾といふハ神樂歌にささ波や志分の唐崎や

御稻菴女ニシチフシヲミナのヨサヤツレ彼らカと云せよと云せ

よとんと蓋ひ米と湯とよの相歌キチワタありし又按に和名

鈔引離騷精米所以享神也和名久萬之禰とあるハ新

猿樂記の熊米ありて書紀に神稻久萬之禰と訓受なり和

訓栞曰熊ハ奠なり一説は天熊クニヒトありて是々ふと東

稻ミチとミチ前ミチの式祭礼に阿る云々なり

殘稻ノコリンチ漢語

粘音活說文作粘和名鈔
引唐韻春穀不潰者也

蕃名

稻ハ穀ト云モミカラ 稗モミカラト云ガ 苡モミカラト云ガ 苡モミカラト云ガ 苡モミカラト云ガ

粗本アラモト 新撰ミヤコ 米裂コメサキ 和名和名 小米コメ 筒落米ツツコロメ 米乃粉コメコ

精音屑作精和名鈔引唐韻米音屑或作粒集韻
破也春餘也 粳音蔑集韻稻也 粒音屑米細者類篇米

碎曰碎曰 籩音屑破也春餘也 粳音蔑集韻稻也 粒音屑米細者類篇米

蕃名ゲゴロイスデレイスト

是穀ト磨テ遠篩トホシフトホシ といふい といふい といふい といふい といふい

このぞ小米ハ春米の屑より小米ハ飴イロト造の料コメト云セ

ア○飴ト製法ハ小米一斗但ふりコメト云セ

小米ふるれバ 糠白米と云

饴近はてハ小米六斗ト云セ 麦芽一升但磨トベシ以上二

品ト和ヒテ湯二斗五升ト入チテ罨チルチト云

して後サ箒サト申シテ抑シテ拍シト云

亦云 二番汁ニト復ニ汲ニ取ニベシ此飴ニト釜ニト煮ニト云

水飴水飴 二番汁ニト復ニ汲ニ取ニベシ此飴ニト釜ニト煮ニト云

膠チ飴チト云 亦凝チ煎チト云 琥珀チの色チト云

双方ヒ子ヒ引ヒ延ヒト云 色ヒ白ヒト云 窠ヒト云 度ヒト云 乃ヒ飴ヒ也

也凡ヒ露ヒ熱ヒト云 會ヒハ飴ヒ津ヒト云 固ヒ糲ヒト云 炒ヒト云 糲ヒト云 糖ヒト云

志比奈世和名鈔今俗志比

志良與禰新撰 美與佐訓蒙

志良

糝説文不成粟也
書若粟之有糝

蕃名ヲンベフリユクテレイスト

志比奈世ハ糝シテ稲シテなりといふは其稲實のなりと
ソハなりと和名鈔野王按曰穀實但有皮而無米也○賈誼
書云昔者鄒穆公有令食鳧雁必以糝吏請以粟公曰夫百
姓胸牛而耕曝背而耘勤而不敢惰者豈為鳥獸哉粟食人
也何以其養鳥也夫奇禽異獸の人食ともみまぐり民は
餓莩の危あるハ王公の耻とて所あり

加良紀書

奴同上 古奴加曰米糠の畧或 磨スリ稗ヌカ 荒アラ稗ヌカ 穀キ穀カラ
ハ並

糠亦作糠和名鈔引彌雅註米皮也○糝音
糝韻碎糠

籾籾皮也亦 米糠 細糠以上郷
籾籾皮也亦 米糠 細糠以上郷
籾籾皮也亦 米糠 細糠以上郷

加良とは穀と通て米の殻といふ義あり奴加ハ脱也其
實の脱ヌカとて糝ヌカなり○糠の用最少くは牛馬と膏と
ハ糝ヌカなり又田圃の培養とて烟草タバコハ糝ヌカとて用と又創傷
ハ糝ヌカの脂とて治れ雁来瘡カサハ蒜ヒル小麦の霜と油ヒル勻ヒルて塗る

脆ハ鍋みく敷通炒まは後黒く焦
 く燃るなりそ下ハ脆源に傳る
 或曰東北ハ地凍の
 加園東の農人多く上方の糠と實取肥糞不易ハ齊書
 云顧歡所居郷中有學舍歡貧無以受業夕則然松節讀書
 或然糠自照晋書云王戎子萬有美名而太肥戎令食糠而
 肥愈甚按ハ熊澤了介傳ハ正保中了介備の園山侯ハ官
 ふ年三十歳左右時ハ騎馬隊ハ嘗患體肥漸至於妨起
 卧乃謂甲冑之人不能上馬可乎由是一斷肉食麥飯鹽豉
 喫素洒然寢則單被絆身耳每至夜半輒起濯足跣踏中庭
 舞刀槍習擊刺久之竟致疲羸乃止みハハのハのハのハのハのハ
 又むハハ肥満ハてハ難能ハあハまハハ商人ハに似ハたりハといハや

せりともや王萬ハ肥ハるハを患ハて糠ハとハ吃ハてハまハんハく
 肥ハとハ波ハせハハ徒ハハ口腹ハハわハりハてハ足ハの勤ハと
 志ハざハらハや織田信長譜ハ信長ハ為ハ用ハ力ハ於ハ軍旅時々ハ與
 奴婢相交ハ以ハ巨杵舂米ハとハりハ古人ハの用意ハハ大ハじハひハかく
 のハぶハとハ

- 荒米 故米 前年の米と
- 虫附米 惡米
- 大日經米 毛入米 宇登米
- 老米 陳倉米 陳廩米 以上
- 音祕說文 惡米也
- 紅 音紅亦同 稭字典 赤米 一曰赤米 紫
- 蕃名

李時珍云米年久者性涼下氣除煩渴調胃止渴治霍亂大
渴史記漢興七十餘年太倉之粟陳々相因充溢露積於外
至腐敗不可食凡久々米糧と貯じと飲する者ハ穢穢
あぐぐともしればいく年経ても新なるがごとくはあ
くて米をて取むじよは黃柏汁ヤクに浸し蒸して流しれば
數百年と貯るととあぬどとあり

成形圖說卷之五終

